沼田市農業通信

農縁だより

沼田市の農業をもっと身近に！

第15号 令和8年10月1日発行
編集・発行 沼田市農業委員会事務局
沼田市下之町888 ☎23-2111



新しい農業委員を紹介します

地域の農業を支える 15 人



ー特集ー 農業委員・推進委員が語る、地域農業のいま

地域の農地を未来へつなぐ

7月から新体制でスタートした農業委員会。地域の農地を守り農業を支えていくために、農業委員・農地利用最適化推進委員は、地域の農業者と関わりさまざまな活動をしています。池田地区農業委員の阿部純子（あつこ）さん（写真右）と大河原広行さん（中央）、推進委員の増田文勇（ふみお）さん（左）に、日頃の活動や地域農業への思いを聞きました。

ー普段の仕事についてー

阿部　観光リンゴ園をしています。シーズン中はリンゴ狩りや配送をはじめ、カフェでリンゴを使ったスイーツを提供しています。

増田　このスイーツ（写真右下）おいしいねぇ。

阿部　リンゴジャムとブルーベリーをバニラアイスに添えました。

増田　私も観光リンゴ園を中心に長年農業をしています。品種を増やすと管理が大変ですが、新品種の接ぎ木をつい試してしまいます。

大河原　私は大学卒業後、家業を継ぎコンニャクを栽培しています。

増田　コンニャクは品種はあるの。

大河原　あるけど少なくて。品種改良で作り出されたイモを、時代のニーズに応じて生産者は栽培します。現在は「みやままさり」を中心に2品種を栽培しています。

ー活動の中で感じることー

阿部　私は2期目です。1期目は、意外に地域の農地について知らないことも多く、研修や活動を通して学ぶことがたくさんありました。もう少し深めたい部分があり、新メンバーと共にさらに学びたいと思っています。

大河原　女性農業委員は4人ですよね。女性の熱意や柔軟なアイデアに男性は刺激されるので、在籍しているのはありがたいです。

増田　あっちゃん（阿部）は、同業でもあるけど、昔から話しやすくて元気をもらっているよ。

阿部　うれしい。

増田　この前、農地パトロールの説明があり、地図を確認すると思っていた以上に耕作放棄地があることに驚きました。

阿部　農地パトロールは、大きな仕事の一つですよ。

増田　耕作されなくなった農地を再生するには簡単ではありません。草刈りや木の根の除去など、再生には大きな労力が必要です。

阿部　まずは農地を整備して、周辺環境を守ることが大切ですね。

大河原　人口が減り耕作する人も





上）農地パトロールで地域の農地の状況を確認する委員　下）阿部さん手作りのリンゴのスイーツ

少なくなっている中で、全ての農地をこれまでと同じように維持していくのは難しいですよね。農地として利用することに限定せずに、その土地に合った形で活用できるといいですね。

ー ぬまた農縁の魅力 ー

阿部　農業を通した交流「ぬまた農縁」を年3回行い、農業委員が栽培する作物を活用し企画していきます。以前、摘花作業を予定していたけれど、ひょう被害でできなかったからリベンジしたいの。

増田　これまでの参加者の反応はどうだったの。

阿部　田植えが楽しかったと農業に関心を持っていました。参加者同士のつながりも生まれています。

大河原　来年2月には、南郷の曲屋で餅つきも予定していますよね。

阿部　遠方からの参加者は、古民家のわらぶき屋根にも感動していました。地域ならではの暮らしや文化に触れられるのも、この事業の魅力ですね。ただ、男性参加者は「利根沼田在住の独身の農業者」という条件があり、参加者を集めることが課題になっています。

増田　農業者自体が減っているのに、それはハードルが高いね。

大河原　農業に関心がある人なら、地域に限らず参加してもらってもいいと思います。

増田　そうだね。農縁事業をきっかけに、農作業の大変さや収穫の喜びを感じてもらって、週末農業や新規就農につながる可能性もありますからね。

委員として見えてきた地域の農地や農業者同士のつながり、これからの担い手について、さまざまな意見が交わされました。農地を守り、次につなぐために何ができるのか。それぞれの活動はこれからも続いていきます。

人と農をつないで

農業委員会長　富沢 誠司



推進委員を2期務め、農業委員は2期目になります。活動を通して地域への理解が深まり、農業者とのつながりも広がりました。私が特に力を入れているのが食育です。6月に行ったぬまた農縁の田植えでは、参加者が楽しそうに作業する姿がうれしかったですね。田んぼは農薬を使わずに育て、10月の稲刈りも参加してもらいます。ぬまた農縁については、任期を終えた農業委員にも引き続き支えてもらえるような仕組みをつくり、継続していければと思っています。

師匠と歩む米づくり

石倉 秀幸 - 柳町 -



両親が農業を営んでおり、数年前から水稲を手伝うようになりました。農機具の不具合をきっかけに富沢さんと知り合い、米づくりの基本を教わったり相談に乗ってもらったりしています。現在は会社員ですが、「いずれは専業で農業に関わってほしい」と声を掛けてもらい、頼りになる存在です。自分で育てた稲が少しずつ成長していく姿を見るのはうれしく、手を掛けた分だけ応えてくれる米づくりに、楽しさとやりがいを感じています。



農地の有効利用や遊休農地の発生防止など、地域の農地を守るために各地区で活動します。

沼田地区 堤 博昭
利南地区 楽原 正美/倉品 和正/川田 実
池田地区 増田 智/斎藤 良司/増田 文勇/松井 隆/石田 久米幸
薄根地区 西山 則行/宇津野 泰章/林 欣平/生方 利男/牛口 肇
川田地区 金井 信壽/飯塚 要一/茂木 登喜男/生方 大助
白沢地区 樋口 浩一/中村 祐介/小林 淳/大津 陽一郎/椎原 元気
利根地区 髙草木 靖/井上 昌一/星野 啓/新井 佳次/小林 幸恵/小田原 進/吉野 福一







上）毎月行われる総会で農地の売買や転用などについて審議する農業委員中央）農地パトロールで使用する地図や腕章　下）ぬまた農縁の味噌づくり。参加者同士で力を合わせて仕込みます

春山明子の野生動物被害対策コラム⑫

クマの大量出没を教訓に！防除で農業と暮らしを守る



(株)群馬野生動物事務所
春山 明子さん

今秋は、標高が高い場所にあるブナの実りが非常に良く、昨年のようなクマの大量出没は起きないと予測しますが、今後の気象次第で状況が変わる可能性もあります。**大量出没が発生しても被害を最小限に抑えられるように、対策を整理**しました。

1 電気柵の点検＝農作物を食べさせない

クマには、20㌢間隔の3～4段の電気柵が有効です。草によるろう電に注意し、6千㍿以上の電圧を維持しましょう。一度餌付くと、トウモロコシ畑や果樹園などでは、繰り返し出没するので、未然に防除しましょう。

2 柿や栗の対策＝トタンを巻く、利用していない果樹を伐採する

昨年は、庭の柿や栗の被害が多く寄せられました。収穫する木には電気柵を設置するか、幹に2㍍のトタンを縦に巻いて登らせないようにしましょう。利用していない木は、実を棒などで叩いて落とし片付けるか、伐採しましょう。

3 コンポストやゴミの管理、小屋や自宅を施錠する＝味を覚えさせない

生ゴミなどは、動物にとってはカロリーが高くおいしいごちそうで、自然の食べ物や農作物よりも執着します。人間に危害が及ぶこともありますので、生ゴミの管理を徹底しましょう。コンポストには果樹・肉魚・スイカの皮・トウモロコシの芯・米ぬかを入れないようにしましょう。小屋や自宅には鍵をかけて侵入を防ぎましょう。

クマは、12才前後の人間の子どもと同じくらいの知能があるといわれます。時期や場所を覚えているので、昨年クマが出没したところに、今年もクマがやって来る可能性があります。早期の防除を行い、クマを餌付けない環境を作りましょう。

農業委員トークリレー No.12

リンゴとともに 地域とともに

桑原農園
桑原 泰雄 さん －横塚町－



昭和48年に開園し、3代目の桑原泰雄さんが営む観光リンゴ園。ぐんま名月など約19品種を栽培し、あかぎや秋映が食べ頃を迎えています。「おいしいと言われるのが何より」と桑原さん。リピーターは7割を占め、外国人客も訪れます。大きさや味はもちろん、接客や園内の雰囲気づくりにも心を配ります。

一方、気温上昇により、早生品種の栽培が難しく、日焼けが発生することも。こうした課題に対応するため、市りんご組合の仲間と情報を共有し、工夫を重ねています。

また、小学生のリンゴ学習や中学生の職場体験も受け入れ、地域のつながりも大切にしています。



桑原さんの祖父が約70年前に植えたリンゴの木。園内に残る1本は、毎年ふじが実をつける

手作りこんにゃくを販売
沼田市農業まつり





10月17日（土）8：30～15：00
会場／利根沼田農業協同組合本店

今年の農業まつりに、農業委員会も出店します。目玉は昔ながらの手作りコンニャク。農業委員が丹精込めて育てた新鮮な野菜なども販売します。会場では、そば打ちの実演や農産物などが当たる抽選会、キッチンカーの出店など楽しい催しが盛りだくさん。遊びに来てください。

編集後記

委員の皆さんから地域の農業や農地への思いを聞き、多くの人の手によって守られていると感じました。7月の農縁だよりをきっかけに、日本経済新聞が沼田の農地パトロールを取材しました。農地を守る取り組みを広める機会となり、うれしく思います。（尾身 薫）